



いわぬま未来構想の具現化

布田 一民

問 いわぬま未来構想の政策を具現化していくためには、住民サービスの根幹である窓口業務の充実を図るべきである。適切な課題設定を達成、解決する実践内容等が整えば「構想の実現」だけではなく人材の育成と職員の能力開発・能力発揮に有効な手段であるワンストップサービスの「総合案内窓口の設置」の組織機構改革が必要ではないか。

市長 総合案内窓口については、職員の人員数の視点から調査をしています。県内でも半数くらいの自治体が窓口を持っています。今後は、サービスの充実の視点で再検討し、総合案内窓口の実施を検討していきたいと考えます。

問 「(仮称)生涯現役型未来都市環境づくり協議会の設置」については提案する。いわぬま未来構想とは、子どもたちに未来を託せるような計画でなければならぬと思う。子どもたちが、今の大人に支えられ、伝えられ、やがて、大人になった時には、支える側にまわる。循環型社会の形成、つまり、

サイクル型未来都市の実現に向けて、協議会を設置し、具現化すべきではないか伺う。

市長 非常に大事な視点だと認識しています。大人の責任で、次の子どもたちが地域を担っていくことは大事だと思います。市民協働を中心に対応していかなければならないと思います。

連絡通路改札業務延長は

問 東西連絡通路改札口の業務延長の実現と(安全)対策だが、以前の議会でも、実施については何度となく提案をしている。市外の方も利用しているが、市民の利便性からしても、公共的サービスとして1時間程度の時間延長をすべきではないか。もちろん、市民の安全対策を考慮しながら実施すべきではないか伺う。

市長 調査の結果、今後の見直しも含め、1時間延長を検討していきます。また、職員を配置することから、安全面についても具体的な方法等の検討をしていきたいと思っています。

問 子どもたちの安全、通学に関する現状認識を伺う。

教育長 学校、保護者、地域、警察署、ふれあいパトロール隊、子ども110番の家との協力、連携を進めており、安全は保たれていると考えます。



安全で安心して暮らせるまちづくり

佐藤 淳一

防犯カメラを設置すべき

問 (児童の)連れ去り事件が起きるなど、保護者には(子どもの安全に対して)相当のストレスがある。犯罪が起きないように、また万が一起きても、早期に解決できるように対策が必要ではないか。

教育長 学校では、異常事態があればメール発信で保護者に伝えます。警察との連携も密にとり、対応は十分だと思えます。

問 (高齢者を)地域で見守るのは基本だが、超高齢化社会では、その見守る方も高齢化が問題となっている。新たな取り組みが必要ではないか。

市長 学区ごとに地域包括センターを設けて対応できるように組織

づくりをしています。

問 犯罪の抑止、子どもたちの登下校時の安全、高齢者の徘徊(はいかい)時の捜索、市民の心理的な安心感にもつながる防犯カメラを、千年希望の丘周辺、東部地区へ復興交付金効果促進事業として設置すべきではないか。

建設部長 千年希望の丘については防犯、防災上の効果を含めて検討します。東部地区は市の方針と整合性を図り検討していきます。

問 国の補助金を活用して、商店街等中央部、市内道路へ設置すべきと考えるがどうか。

市民経済部長 商店組合等が地域の実施主体として受けることができる補助制度がありますので、情報を提供し、支援をしていきます。

問 各町内会など、住宅地への設置を促進すべきと思うがどうか。

市民経済部長 地域の意見を伺い、危険な場所を把握し、犯罪の抑止に効果上がる設置場所・方法を検討し進めることが必要と考えます。